

# 平成 17 年度「五三会」学生大賞

広島工業大学建築・環境系同窓会「五三会」  
五三会顕彰制度認定委員会  
西宮 善幸

## 審査講評

審査会は 2 月 16 日開催し、5 人の審査委員が各自 2 時間程度の時間で提出された卒業設計を審査しました。(毎年感ずることですが、学生諸君が学生生活最後の膨大なエネルギーをかけた卒業設計数十作品を数時間で見て選考していくことには、審査委員にそれなりの能力が要求されます。)

環境デザイン学科、建設工学科(建築工学コース)の卒業設計全作品を、一つひとつ内容を読み取り、理解し、比較判断するのはきわめて大変な作業でした。最初に、各審査委員が評価すべき作品を数点選出し、9 作品を第一次候補としました。次にこの中から推薦が重複しているものを第二次候補とし、次の 4 作品を議論の対象としました。

ウラとオモテ

今西 伴仁 環境デザイン学科

Patchwork

原山 大 環境デザイン学科

流簞壁

村上 陽祐 環境デザイン学科

If it turns at a corner , it is another world.

山本 純也 建設工学科

そして審査委員全員で、この 4 作品についてお互いに解釈と確認を交えながら議論を重ねていきました。今年はレベルが拮抗しており、内容・プレゼンテーション共に突出した作品が見当たらず、大賞複数案も意見として出てきました。

その中で原山大君の作品について、建築単体としては力強さや意匠性等あまり魅力を感じさせないという意見もありましたが、計画としての形態操作が巧みであること、尾道らしさといった地域性を生かしていること、外部から新たな血を取り込みながら、コミュニティの在り方を模索し葛藤しているところが新鮮であること、などの理由により、審査委員全員一致で大賞に決定しました。

平成 17 年度 五三会学生大賞

Patchwork

原山 大

最後まで大賞候補に残った、他の 3 作品の講評です。

今西伴仁君の作品は、計画に好感が持て、場の扱い方や内容に質の高さを感じました。意図することと場所性との関係で、都市の中にこのような空間があると、周りがより一層魅力的な場、楽しい場になるとも感じられました。

村上陽祐君の作品は、建築物として計画、意匠、構造面での魅力が十分伝わってきました。大胆な構成と単純な構図の中に、これからの日本の社会がテーマとして持ちえるであろうとする、コレクティブハウスを挿入したもので、今後の展開に期待が持てる作品です。

山本純也君の作品は、建築的なものを感じさせないところに他の作品と比較されるところがありましたが、地域づくりや街づくりの観点から見ると、十分にビジョンのある提案になっていました。プレゼンテーションされている“まち”に住んでみたいと思わせる作品となっています。